

くらし・福祉を
ささえるまちへ



子育て応援します



北野のり子だより

*議員団控室 Tel740-1811

*日本共産党川西市委員会

川西市平野2-1-3

Tel792-2164

北野のり子の活動をお知らせ
しています。

福島県・福島市・南相馬市を訪ねて

7月11日~13日、震災がれきや除染のこと、被災地の状況をもっと
知いたくて、日本共産党川西市会議員団で福島県へ行ってきました。

災害廃棄物処理の現状と課題

地震、津波、原発事故：福島
県では3重、4重に及ぶ甚大な
被害を受けました。死者271
7人、行方不明者5人と多くの
人が犠牲となりました。そして、
未だ16万余の人々が避難生活を
余儀なくされています。

災害廃棄物処理について、国
は平成26年度末終了に向け、進
めています。これまで処理し
た廃棄物は全体の約14%、未解
体家屋が約38%もあり、なか
か思うようには進んでいま
せん。というのも最終処分場が
決まらない。ここが決まらな
いから中間貯蔵施設も仮置き場も決
まらない。そしてなんといつ
も放射能の問題が処理を困難に
しています。放射性セシウム濃
度が8,000Bq/kg超の指定



福島県庁の担当職員と懇談



仮設に入居している
浪江町のみなさんと懇談

物の処理も保管をするだけで、
その保管場所にも苦勞している
というのが現状です。また、住
民のみなさんより「排ガスの中
に放射性物質が含まれているの
ではないか」、「遠くへ持って行
って欲しい」、「私たちは、家
に帰れない。がれき処理より
生活再建が先だ」等：の声もあ
り、住民の理解を得ることもむ
ずかしいとのこと。

夢も希望もない。ただ生かされているだけ

入居者の48%が高齢者。「夏
は暑く、冬は寒い」、「出入口が
台所横の玄関一か所だけなの
で災害時（火事）、にげること
ができない」、「外に水道がな
い」等、仮設とはいえ、住環境



南相馬市小高区の商店



被災地は止まったまま

警戒区域が解除された南相馬
市小高区は、水道もガスも止ま
ったまま。壊れた家屋は手つか
ず、津波に襲われた車や船が転
がっており、あの日と変わらな
い光景を目の当たりにしまし
た。

塩害の田んぼ



津波で打ち上げられた船



今回、現地を訪れ、「福島
原発事故がなければ…」と
いう被災者のみなさんの声
が印象に残っています。今
もなお福島市の苦悩と困難は
続いています。
大飯原発再稼働を決めた
野田首相は、福島の人々の
苦しみや悲しみの声が聞こ
えているのでしょうか。

